『同志社大学　日本語・日本文化研究』 第 21 号　pp. 19 － 38（2024. 3）

副詞「まして」「なおさら」の意味的考察
A Semantic Analysis of *Mashite,Naosara*

仲渡　理恵子

要　旨

副詞「まして」「なおさら」に関しては、使い分けや意味の差異が明確に示されているとは言いがたい。本論文は、現代日本語書き言葉均衡コーパスから、各 100 例文を抽出し、その構文的位置や、前あるいは後続する表現の検証から、意味的考察を行うことを目的とした。その結果、「まして」は主に文頭に位置し、言及において「最大最小値」が見出され、「前提となるネガティブな状態 / 人＋まして M（＝ maximum/minimum　話し手の類推による最大最小値の見積もり）＋加算されるネガティブな状態 / 著しい他者のネガティブな人」とモデル化できた。一方、「なおさら」は半数がそれ自体を述語として用いる特徴的な副詞であった。「状態形容性」「新たな状況の累加」が言及の条件となり、モデル化は「前提となるネガティブな状況＋なおさら（A ＝ addition 話し手の変動的恣意的基準による累加）だ」と提示することができた。「まして」「なおさら」の共通項は、話し手の主観的な類推であり、条件や原因･理由を表す表現と共起しやすい点であった。相違点は「まして」は話し手の考え得る限りの最大最小値を見積もり、「なおさら」は話し手の変動的、恣意的基準による「累加」と「形容状態性」を表す副詞であると結論付けられた。「見積もり・評価」の副詞との関連性においては、具体的的な数量詞で見積もるのではなく、話し手の主観的な類推が最大最小値か恣意的かという点から「類推・主体的評価」と分類することができた。

キーワード

日本語　副詞　まして　なおさら　類推

1　はじめに

日本語母語話者と同等レベルの超上級日本語学習者と接していると、副詞を積極的に使っていないことに気付く。理由を尋ねると「類似表現が多く、使い分けが難しい」「『全く～ない』のように明確な文型パターンがあれば、わかりやすいし、使うと思う」と返ってくる。前者は辞書で「せいぜい」の意味を調べると「たかだか」と記載されており、「たかだか」を見ると「せいぜい」に出くわすというようなことは往々にしてあり、納得できる。後者は初級レベルにおける文型中心学習の影響と推察できるが、多様な副詞において、ある程度共起関係が明確であれば、アウトプットへと繋がり、習っ

たものの使わずじまいという状況が打破できる可能性はある。

筆者は仲渡（2021 ①②）、仲渡（2022）において限定副詞の中で「見積もり方･評価」に分類される「せめて」「少なくとも」「せいぜい」「たかだか」「たかが」各 100 例の文を分析、考察して、モデル化の提示を行った。では、「見積もり方・評価」との関連性が指摘される副詞「まして」「なおさら」はどうであろうか。辞書『講談社カラー版日本語大辞典（第二版）』（1995）では以下となる。

まして：程度の軽いものをあげて、それでさえそうなのだから、後述の事柄の場合はなおのことの意を表す。なおさら。いっそう。いわんや。much less

なおさら：ますます。いっそう。all the more;more and more

「まして」には「なおさら」と書かれているが、「なおさら」にはなく、英語では対照的な意味になっている。また、『類語国語辞典』（1985）でも、

「まして」: なおさら。「増して」の意。

「なおさら」: まして。

と書かれており、前述したように辞書では使い分けが曖昧な部分もあると言わざるを得ない。これでは日本語学習者も混乱し、アウトプットへは繋がらないことが懸念される。

そこで、本論文では「まして」と「なおさら」の意味の共通点、相違点を明確にするため、例文の分析と考察を行い、日本語学習者の一指標となるモデル化の提示を試みる。また、「見積もり方・評価」の副詞との関連性についても、考察する。

2　先行研究と問題の所在

「まして」「なおさら」に関する研究はさしてなく、特に「なおさら」に関しては、副詞のカテゴリーでもほとんどとり上げられていないのが現状である。

工藤（1977）は、限定副詞の中で「いわんや」「まして」を顕著に異なった二つの場合を比較して、「他方の場合さえそうだから、以下の場合などはいうまでもなく」という関係でとり立てるものであり、「なんぞ / など / なんか」のような副助詞と共存する点に端的に表れているように、対象に対する軽重の価値評価性がまとわりついている「類推」と分類している。そして、価値評価性が一層あらわになるのが「せめて」「少なくとも」「せいぜい」「たかだか」「たかが」であり「見積もり方・評価」に分類している。工藤（2000）でも「いわんや」「まして」は類推的に価値の軽重を問うものと述べている。

川端（1983）は、「まして」を「関係副詞（比較と程度副詞）」と分類し、程度的に

より上位のものの選択であり、その文実現にあっては形容詞文性が濃くなると述べている。

西原（1991）は、「まして」は談話構成のストラテジーであり、表現、内容の伝達過程を調整するものとされる表現と共起する副詞群として「累加」に分類している。

森田（1989）は「まして / いわんや」は「みんな規則を守っている。まして君はクラス委員だ。校則を守るのは当然じゃないか」のように、①ある一般的な状況の上に、さらにより厳しい状況が加算されることにより、状態が当然そうなることを強調するもの。また、「先生でさえわからないのに、まして生徒のぼくにできるはずはない」のように、②ある状況において、著しいほうの例をあげて「それですらある状態となるのだから、他方の場合は言うまでもない」と軽いほうの例が当然そうであることを強調するものと定義している。「なおさら」については「ただでさえ成績が悪いのに、授業をサボったりしたらなおさらだ」のように、結果的に二つの状況を対比して「後者のほうが当然より著しい状態だ」となり、「まして / いわんや」の意味に近づく。また、述語に係り、それ自体が述語になることもあると述べている。「まして / いわんや」はAを前提としてBを引き出す役割を果たすのに対し、「なおさら」はA・Bの状態を比較して、Bの状態をより以上と形容する状態形容の語となり、新たな状況の累加が必須条件であるという見解も示しており、「いい洋服を身につけると、なおさらすばらしくなる」は「まして / いわんや」では言い換えられないとしている。さらに、森田（2002）では「AはCだから、まして、BはCだ」の文型で「先生さえわからないのに、まして生徒にできるはずがない」を例として、他との対比において、「まして」はその一方をとり立てる意識を表す「限定副詞」としている。

安部（2008）は「AまするB」において「[普通ノ状態デ A][生活ガ苦シイ C] まして [物価高デ B][生活ガ苦シイ C]」のように、「まして」はAとBを共通項Cとの関連において想定していることを表すと指摘している。また、安部（2013）では「まして」と「なおさら」の共通点として、「まして」同様「なおさら」もAとBを共通項Cとの関連において想定していることを表し、加えてAとBの関係には「対比」と「累加」の二種類があると述べている。相違点として「AはCまするBはC」「AはC　BはなおさらC」の違いは、要素であるABCの中でどの部分が言いたいことであるかによって起こるのではないかとまとめている。

これらの先行研究から「まして / いわんや」「なおさら」は複雑な意味定義付けがなされてることがわかるが、筆者は自身で「類推」「軽重の価値評価性」「累加」「強調」「形容性」というキーワードを見出した。しかし、これらが具体的に何を指すのかは明らかになっておらず、どのような状況について言及する際に用いるのか、プラス方向、マイナス方向の傾向は見られるのかという部分も検証はなされていない。

そこで、本論文では「まして」「なおさら」の例文を検証し、意味の観点から、構文的位置や共起すると判断できる表現の有無などを分析、考察を行うこととする。加えて、

「見積もり･評価」の観点から「せめて」「少なくとも」「せいぜい」「たかだか」「たかが」との関連性も検討する。

なお、「いわんや」は古語であり、現代の日常語として登場しないため「まして」のみを扱う。また、混同を避けるため「ましてや」「何にもまして」なども扱わず、あくまで「まして」単体のみを扱うこととする。

3　調査の対象と方法

調査では幅広い媒体を網羅する『コーパス検索アプリケーション中納言』の『現代日本語書き言葉均衡コーパス　BCCWJ』を用いた。新聞、書籍、白書、ベストセラー、法律、広報誌、教科書において「まして」「なおさら」を含む文を無作為に抽出し、各 100 例文の分析を行った。これ以下の例文は『現代日本語書き言葉均衡コーパス　BCCWJ』からの引用であるが、例文中の下線は筆者によるものである。

4　分析と考察

4.1. 「まして」と「なおさら」の構文的位置からみた考察

文における副詞の構文的位置を分析した結果、(1) のように「まして」が文頭にある場合は 76 例、(2) のように述部（修飾）にある場合は 24 例で、「～はましてだ」というような述語になる文は見当たらなかった。7 割以上が文頭であることから、「まして」は主に文のはじまりに位置する副詞と言えよう。

(1)「間違いなく、私が水尾正良を殺した」父が、呻くようにいうと、低くこうべを垂れた。「もちろん私の単独犯行だ。共犯者はいない。まして、だれかをかばっているようなことはない、絶対に」　『北の運河殺人事件』小林久三著（1990）

(2) 何度も考えてみた。着のみ着のままで、まして僕のような人間と一緒にここから出て行ったりしたら、きみは別の意味で苦労をすることになるのかもしれない。それはわかってる。わかってるから、言い出しにくかったんだ。
『夜ごとの闇の奥底で』小池真理子著（1996）

(3) 夫は利家が死んでから、目に見えて嫁に冷淡になっていた。家康に前田家との縁者振りを禁じられてからはなおさらであった。　『群雲、関ヶ原へ』岳宏一郎著（1998）

(4) 腰に負担がかからないように、足をまげて全身をうまく使い患者さんを移動させる。動けない患者さんは、なおさら重く感じられる。その患者さんを検査室に送ると今度は 2 時の検温。　『わたしがナースを辞めたわけ』田中ひろみ著（2003）

一方、「なおさら」は、(3) のように「～はなおさらだ」と文の述部（述語）が 53 例、(4) のような述部（修飾）が 47 例、文頭は 0 で「まして」とは対照的な位置に見られた。「なおさら」はそれ自体が述語になるきらいがある稀な副詞と言えよう。
このように構文的位置に関しては、「まして」は文頭、「なおさら」は述語と相反する結果となった。

4.2 「まして」と「なおさら」の意味における方向性

「まして」と「なおさら」はどのような文脈、言及において用いられる副詞であろうか。ネガティブな言及とポジティブな言及、どちらの方向性を持つのかを明確にするため、例文の検証を試みたい。

4.2.1 「まして」の意味的傾向

(5) 草原にもどった“韃靼”は、四分五裂し、弱くなった。ときに長城をこえて侵入することもあったが、明軍によってつねにおさえこまれた。もはや、その民族には、元帝国のころの剽悍さはみられず、まして一国を新興させる力などはない。「わかったか」という意味のことを、財神は浙江語でいった。　『韃靼疾風録』司馬遼太郎著（1987）

(6) 文学者も、がいして人間平等論のとりあつかいにくさについて、昔から死ぬほど悩みぬいてきた。まして、宗教者が悩まぬはずはない。もしも、悩まないとしたら、その瞬間から彼らは宗教者ではなくなっているはずである。
『滅亡について』武田泰淳著（1992）

(5) は、韃靼は弱くなり、明軍におさえこまれ、その民族に元帝国時代の剽悍さはないというネガティブな前提がある。そこに「まして」を述部（修飾）に置いて用いることにより、一国を新興させる力などはもちろんないというネガティブな状況が加えられている。これは、2 で挙げた森田（1989）の、①「ある一般的な状況の上に、さらにより厳しい状況が加算されることによる強調」に当たるだろう。(6) は「まして」が文頭に位置するが、文学者ですら昔から人間平等論に悩んできたというネガティブな状態に、「まして」を用いて宗教者をとり立て、悩まないはずがないとネガティブな言及をしている。これは森田（1989）の②「著しいほうの例をあげて、それですらある状態となるのだから、他方の場合は言うまでもない」に該当すると考えられる。ただ、文学者が宗教者と比べて著しいほうだと言えるのかは疑問が残る。位置にかかわらず、「まして」は「一般的な前提に加算される」「著しい前提だから他方は当然」のように、前提ありきとなろう。この点から「前提となる状態＋まして＋加算される状態」あるいは「著しい前提＋まして＋他方の場合」という形が浮かび上がってくるが、(5) (6) のような「ネガティブ＋まして＋ネガティブ」の方向性以外に、「ポジティブ＋ま

して＋ポジティブ」や「ポジティブ＋まして＋ネガティブ」のような形も見られるのか、さらにどのようなことに言及されるのかを考察する。

4.2.2　ネガティブな意味的傾向が見られた「まして」

「まして」が用いられている 100 例文を分析した結果、(7)（8）のような「前提となるネガティブな状態＋まして＋加算されるネガティブな状態」が 49 例と半数を占めた。

(7)「せ、拙者は何も知らんのだ…生命だけは助けてくれ！」抗し切れない相手であるとは、いやというほど知らされていた。まして一対一である。左源太は初っぱなから哀願した。
『若さま黄金絵図』左近隆著（1995）

(8) 木々や草花などの緑がもたらす潤いは、その物理だけでなく、視覚・心理などのソフトな面を含めると、実に多様で計り知れないものがある。それらの建物との関わりはほんの一側面であり、ましてその熱的な効用は、大木の魅力を虫眼鏡で見るに等しいともいえる。
『建築と都市の緑化計画』石田秀樹著（2002）

(7) は、左源太が熟知している抗し切れない相手と対峙している場面だということが推察できる。この厳しい状況を前提とし、「まして」を用いて一対一であることを加算し、誰も助けてくれない生きるか死ぬかの状態を強調しているネガティブな言及と言えよう。(8) は、緑がもたらす潤いは実に多様であるが、それらと建物の関わりとなるとほんのわずかな部分で、さらに植物と建物の熱的効用を考えると、大木を虫眼鏡で見るような、不可能に近い状態だということを「まして」によって加算している。加えて、(7) は、命だけは助けてくれと哀願するような最悪の状態、(8) は、熱的効用は最小に等しい状態を示唆していると考えられ、ともに話し手の考え得る最低値が表出しているのではないだろうか。

(9) 出所後は、私も働かなくてはなりません。社会の不況はますます厳しくなるばかりだと新聞、雑誌等からの情報で承知しております。まして、刑務所帰りの人間に、世間の風はことのほか冷たいと覚悟しております。
『永遠の咎』永瀬隼介著（2005）

(10) その結果、ソ連の経済学者はかつて持っていた世界的な権威をまったく失ってしまい、今日ではソ連の経済学者たちの発言など自由世界では耳を傾ける人間はいない。まして自由世界の経営者たちはソ連のエコノミストの発言など、まったく関心を持とうとしない。それどころか、ソ連、中国を含めて自由経済の情勢分析に失敗ばかりを繰り返している。
『日本はこう変わる』長谷川慶太郎著（1986）

（9）は不況で「一般人」も働くことは厳しい状況ということが前提となり、「まして」を用いて「刑務所帰りの人間」という他方をとり立てている。（10）は世界的権威を失ったソ連の経済学者の意見を「自由世界の一般人」は聞こうとしない状況を前提として、他方の「自由世界の経営者」は関心すら持たないと強調している。両者とも一般人と刑務所帰りの人、一般人と経営者となり、「一般人」は前述した森田（1989）の「著しい前提」とはやはり言いがたい。むしろ他方のほうがが著しいと捉えられるので、「前提となるネガティブな状況で示唆される人＋まして＋著しい他者の場合（は当然）」というパターンもある得るのではなかろうか。この形は 29 例見られた。

さらに、（9）の刑務所帰りの人間は罪を犯した最低の者であり、（10）の経営者は経済に最前線で関わる者あるいは最高位の者と言え、それぞれ、話し手の類推における最低最高値が表れている。

「前提となるネガティブな状態＋まして＋加算されるネガティブな状態」と「前提となるネガティブな状況における人＋まして＋著しい他者の場合」の合計で 8 割近くになることから、「まして」はネガティブな方向性を持つと言えるだろう。また、状態や人に言及する際に用いられるが、話し手の類推による最低最高値を見積もっているように思われる。

4.2.3　ポジティブな意味的傾向が見られた「まして」

（11）（12）のような「前提となるポジティブな状態＋まして＋加算されるポジティブな状態」は 18 例見られた。

（11）ええ。巧みに合鍵を作って吉岡さんのマンションに忍び込んだような男なら、広瀬の部屋についても侵入手段は簡単に講じられるはずです。まして、部屋の主はこの世にいない。留守宅への侵入になるわけですから、これは簡単です。

『「伊豆の瞳」殺人事件』吉村達也著（1994）

（12）フランスの大臣は在任期間が日本よりはるかに長いし、議員当選回数で順番になるわけでもない。大臣の担当分野に対する識見、判断能力が官僚に劣ることはなく、まして国会答弁で官僚まかせなどという事態もないという。

『されど護送船団は行く』岡田康司著（1997）

（11）は、巧みに合いカギを作って忍び込める男は、侵入手段を簡単に講じることができるというプラス方向の前提があり、「まして」を用いて部屋の主は死んでいて留守であり、侵入時に好都合だというプラス方向の状態を加算している。留守宅への侵入は、合鍵を作って忍び込む男にとって最高の状態だと言えよう。（12）のフランスの大臣は、日本のように当選回数で順番に決まることはなく、識見や判断能力が官僚に劣ること

もないと、ポジティブな前提の上に、日本では官僚に任せているような国会答弁を人任せにしないという状態を加算している。国会答弁は大臣の最重要任務であると言え、(11)(12) とも最高値を見積もっている。

(13) 人は誰でも、自分の意見を認めてもらうと、気分がいいものです。まして「否定的」タイプは、もともと自信家が多いですから、自分の意見を尊重されることに深い満足を覚えます。ですから、そのあとにこちらの意見を述べるようにすると、意外にすんなりと耳を傾けてくれるのです。
『ビジネス・シーンで困った時、悩んだ時に言いにくいことをズバリいう法』植西聰著 (1999)

(13) のように、「前提となるポジティブな状況における人＋まして＋著しい他者の場合」は 4 例のみであった。(13) も (9)(10) 同様「著しい前提」というより、人は誰でも意見を認めてもらうと気分がいいとポジティブな状況で「一般人」を示し、「まして」を用いて否定的タイプは意見を尊重されると満足すると言及している。また、否定的タイプは相手の意見をまず否定するところから始め、その否定が尊重されることに満足を覚える自信家で、最悪とまでは言えなくとも、最も避けたいタイプの人ではあろう。

「まして」はネガティブ、ポジティブという方向性の違いはあれど、最重要、最高、最低、最悪など、話し手の類推による最大最小値の見積もりが共通して見られると言えるのではないだろうか。この見積もりは「なおさら」でも見られるのだろうか。

(14) 評論家の全集は多くこの形であるが、現行の個人全集全体の傾向からみればむしろ少数派であって、小説家や詩人の場合、現役の作家の全集でさえ創作ノートや草稿が収められたりしている。まして亡くなった文学者のものは、日記や書簡、未定稿や創作断片、果ては若き日の習作や学校作文までも採録するのが一般的な傾向となっている。
『前田愛著作集』亀井秀雄著 (1989)

(14) のようなネガティブとも、ポジティブとも判断しがたい「まして」を用いた文は 4 例あった。小説家や詩人は生きている者であっても創作ノートや草稿が全集に収められている。それが亡くなった文学者となると創作断片や学校作文までも採録されるとあるが、亡くなった文学者のものは貴重だからと考えれば、ポジティブにも捉えられるが、一般的な傾向とあるので、あくまで一般例としての紹介であり、ポジティブとも、ネガティブとも方向性が曖昧で、判断がむずかしい文である。用例が少ないため、参考に留める。

4.2.4 「なおさら」の意味的傾向

（15）厳しい自然環境の中で咲く花はどれも美しいといえる。それが私のお気に入りの場所で咲いていると、どんな種類の花であってもなおさらである。白馬岳の西側に位置する清水岳もそういう場所のひとつで、一日かけてのんびり撮影するのが好きだ。

『白馬岳』竹内真一著（2000）

（16）エドワードはうなるようになにか話しているけど、あまりに早口でわからない。でも、激しく悪態をついているように聞こえた。車体は行きよりさらにガタガタ揺れ、暗闇のせいでなおさら恐怖感が募る。

『闇の吸血鬼一族』ステファニー・メイヤー著小原亜美訳（2005）

森田（1989）は「なおさら」を①述語に係り、それ自体が述語になることもある、②二つの状況を対比して後者のほうが当然より著しい状態だと述べている。（15）は「なおさら」自体が述語となっており、典型的な①の用法と言えよう。厳しい環境で咲く花は美しいというプラス方向に、私のお気に入りの場所で咲く花は、どんな種類であろうともより美しいとプラス方向が重なってポジティブな言及となっている。（16）は暗闇のせいでという表現から、行きは明るかったが、今は夜だと推察でき、昼と夜を対比して夜のほうがより怖く感じる、と②の捉え方と一致しているが、ネガティブな方向の言及である。ここから「前提となるポジティブな状況＋なおさらだ（述語）」、あるいは「前提となるネガティブな状況＋なおさら＋より著しいネガティブな状況」という形が見えてくる。

また、森田（1989）は、「なおさらはA・Bの状態を比較して、Bの状態をより以上と形容する状態形容の語となり、新たな状況の累加が必須条件である」と述べている。この視点からも例文を考察すると、（15）の美しい、（16）の恐怖感＝怖いは「形容状態の語」と言えるのではなかろうか。さらに（15）厳しい自然環境の中でも、特に私のお気に入りの場所、（16）暗闇は「新たな状況の累加」と捉えることができる。

「なおさら」では「まして」で見られた話し手が考え得る最小最大値の「見積もり」ではなく、「形容状態」と「新たな状況の累加」が表出している傾向があるが、「形容状態」も「新たな状況」も例文からは客観的視点というより、話し手が思う主観的なものではないかと推察できる。

4.2.5　ネガティブな意味的傾向が見られた「なおさら」

「なおさら」が用いられている100例文を分析した結果、（17）のような「前提となるネガティブな状況＋なおさらだ」が36例、（18）のような「前提となるネガティブな状況＋なおさら＋より著しいネガティブな状況」は35例で、合計71例見られた。「まして」同様、ネガティブな方向が7割を超えることから、「なおさら」も主にネガティ

ブな言及に用いると言える。

(17) 彼女はこれまでとは違ったふうに、記者たちに追いまわされることになるだろう。もう雲隠れしてしまっているかもしれないが。いずれにしても、彼女の立場はかなり困難になるだろう。イメージ重視の新党ではなおさらだ。離党か除名か。下手をすれば彼女の言葉通り、議員辞職もありうるだろう。　『骨ん中』荒木源著（2003）

(18) この十数年で千人以上が登頂している世界最高峰のエベレストですら、このありさまだ。年間約三十万人が山頂を目指す富士山ではなおさら、環境汚染は深刻だ。しのぎを削ってきた静岡、山梨両県だが、富士山とともに歩もうとする気持ちは同じだ。
『産経新聞』（2003）

(17) は、彼女は不祥事か何かで記者に追い回されることになり、困難だという状態形容を述べており、従来の党ではなく、イメージ重視の新党であればという新たな状況の累加も明確である。(18) は、環境汚染は深刻だと形容しており、登頂者数千人以上のエベレストに、累加としてより著しい三十万人の富士山を挙げている。

(19) 最終的に判断するのは利用者であるが、図書館としても収蔵容量や予算に限りがあって、必ずしも要求のあったものを全て選ぶことはできない。しかし、図書館に来た利用者を失望して帰すことはなおさらできない。　『公立図書館の経営』大澤正雄著（2005）

(20) 翌日も意造は平静で、せきのことなどおくびにも出さず、浴衣に熱中している烈はなおさら、口にしようともしなかった。あれほど案じたのに、時間が経つにつれ、すこしずつ不安がうすれてくるのはふしぎなもので、一日が過ぎ、二日が過ぎると、佐穂も何となく、せきはどこかで生きているにちがいないと思えてくる。
『蔵』宮尾登美子著（1993）

(19) (20) はネガティブな言及であるが、特記しておきたい例文である。これらは「なおさら」の特徴である状態形容や、新しい状況の累加が明確とは言えず、むしろ (19) は「～、図書館としても収蔵容量や予算に限りがあって、必ずしも要求のあったものを全て選ぶことはできない。しかし、図書館に来た利用者を失望して帰すことはましてできない」、(20) も、「翌日も意造は平静で、せきのことなどおくびにも出さず、浴衣に熱中している烈はまして、口にしようともしなかった」と「まして」に置き換えたほうが、表現としてより文に合うのではないかと考えられる。なぜなら (17) においては、図書館は利用者の要求に全て応えることはできないが、図書館に来た利用者を失望して帰すことは、図書館側としては最低の行為とも考えられるからである。(18)

も、夫である意造はもちろん平静で、娘の烈も浴衣作りに熱中しているので、せきのことは口に出さないというマイナス行為の強調となり、口にしようともしない＝完全無視という最悪の態度とも考えられる。このように捉え方によっては、「まして」の特徴である最低値が（17）（18）に表れていると言える。

しかし、なぜ、例文は「なおさら」を用いているのであろうか。それは「まして」より「なおさら」のほうが話し手の任意で基準を決められるからではないだろうか。筆者からすると、図書館に来た利用者を失望して帰すことも、浴衣に熱中している烈が無視を決めこんでいることも最低の行為として捉えるほうがより自然だと思えるが、それぞれの著者はそうではなく、恣意的な起点からそれよりもという視点なので、「なおさら」を用いていると考えられる。話し手の主観的な類推ではあっても、考え得る最大最小値の見積もりと捉えるか、そうではない曖昧な変動可能の基準を自ら決めるかで、「まして」と「なおさら」の使い分けが生じると言えるのではないだろうか。ただし、例文が少ないため、より詳細な考察は用例を増やし、続稿において行うこととする。

4.2.6　ポジティブな意味的傾向が見られた「なおさら」

（20）のような「前提となるポジティブな状況＋なおさらだ」が 14 例、（21）のような「前提となるポジティブな状況＋なおさら＋より著しいポジティブな状況」は 12 例見られた。

（20）伯母はすっかり渉のことが気に入ったらしかった。ことに渉がクラシック音楽が趣味だと知ってからはなおさらだった。　『無伴奏』小池真理子著（2005）

（21）優勝できるチームをつくり、勝負に出ながら、一方では三年後、五年後のチームのことも考えている。監督の考えがこのようにきちんとしていれば、働く選手はやりやすい。もちろん、コーチもなおさらやりやすい。大いに能力を発揮できようというものだ。
『熱将星野仙一』戸部良也著（2000）

（20）は、伯母が渉のことが気に入ったというプラス方向に、特にクラシック音楽が渉の趣味と知って以降はより気に入ったというプラス方向が重なってポジティブな言及となっている。（21）もやりやすいという形容状態があり、選手に累加して、コーチを挙げている。ポジティブな方向は 26 例ではあるが、「なおさら」においてもこのように確認できた。

ポジティブか、ネガティブか、どちらの方向か判断しにくい例は「前提となる状況＋なおさらだ」のパターン 3 例のみであった。「まして」同様、参考に留めたい。

（22）人間四十ともなれば、自分の顔に責任を持てといわれますが、服装となれば、なおさ

ら でしょう。その人の過去、現在の仕事、趣味、全てがやはり、見てくれのどこかに集約されます。　『ちょっとキザですが』磯村尚徳著（1975）

（22）は、人も四十歳になれば、自分の顔＝全てが表れる姿に責任を持てと言われるし、服装はより自分を表すので、責任を持ちなさいというアドバイスと捉えるとプラス方向であるが、注意喚起と捉えるとマイナス方向にもなり、どちらとも決めがたい例である。

なお、「まして」「なおさら」両者で「ポジティブ＋まして＋ネガティブ」や「ネガティブ＋なおさら＋ポジティブ」など、前提と後続部分がねじれを成すような例は見られなかった。

4.3. 「まして」と「なおさら」の前あるいは後続する部分の形から見た考察

「まして」「なおさら」とも、主にマイナス方向に言及する際に用いられる傾向が明らかとなったが、共起するような表現は認められるのだろうか。

4.3.1　条件形が見られた「まして」

（24）クマは、カギがかかっていなければ、取っ手のついたふたも持ちあげますし、扉もあけてしまいます。まして、ゴミがあふれていたら、「どうぞ、ご自由に召しあがれ」といっているようなものです。　『人はクマと友だちになれるか？』太田京子著（2004）

（25）「裁判所がよく明快な判決を下されたことに感謝している、自分はきょう有罪判決を受けたが長い間いろいろ飯田さん達に迷惑をかけたことを本当に申し訳ないと思う、私が刑に服しても心配なのはただ子供のことだけで、まして自分が死んだ時のことを考えるとたまらない」と語ったという。　『三鷹事件』片島紀男（1999）

「まして～と / ば / たら」のように、「まして」が条件形の文頭部分に位置したものは、100 例中 17 例あった。ただし、例が少ないので、具体的な用法や構文における分析は例を増やし続稿で行いたい。（24）は「まして」が文頭、（25）は述部（修飾）位置しているが、条件形は 17 例すべて「（～、）まして～と / ば / たら」というパターンであった。

（24）は、クマの能力はふたも持ち上げれば扉も開けるほど高い＝人間にとっては脅威というネガティブな前提があり、ゴミがあふれる＝クマにエサを与えていることは、ネガティブが加算された脅威が増す状態だと捉えられる。（25）も、子供のことが心配だというネガティブな前提があり、「まして」を用いることにより、もし私が死んだ時のことを考えた場合、子供はどうなるのかというネガティブ要素を加算、強調していると言える。このような条件形における「前提となるネガティブな状態＋まして＋加算されるネガティブな状態」は 17 例中 13 例見られたが、「前提となるポジティブな状

態＋まして＋加算されるポジティブな状態」は（26）の１例のみであった。また、(27) のようなポジティブなのか、ネガティブなのか、方向の判別が難しい例は２例あった。

(26) これは大変なことです。自分の娘が入内すれば、それは高藤一門が天皇の一族に連なったことになり、まして娘が産んだ御子が天皇になれば、天皇と血縁で繋がった外祖父になるわけですから。急に、歴史の表舞台が我々の眼前に繰り広げられてきたのです。
『平安京の驚き！京都の歴史ロマンを歩く』塚本哲朗著（2005）

(27) 部下たちが、上司の姿を見て、何となく力が涌いてきて奮い立っていくのと、何となく幻滅を感じて暗くなっていくのとでは天地の差があるといわねばならない。まして経営者となれば、人と会う機会が多くなる。その中には福の神もおれば、貧乏神もおり、時には死神もいよう。　『勝ち運をよぶ心の力』清水栄一著（1995）

(26) は、述部（修飾）に「まして」が位置するが、娘が入内するだけでも天皇の一族になるというプラス方向の前提に、「まして」を用い、その御子が天皇になれば、血縁がつながると、よりプラスとなる状況について加算している。(27) は、文頭に位置するが、部下たちが奮い立っていくことと、幻滅していくことには差があり、経営者という立場で会う多くの人の中には、福の神も死神もいると、前提も加算もプラス方向、マイナス方向両方に言及しているので、どちらかには決めがたい。

しかし、(24) ゴミがあふれていて、クマにエサを与えることは、最大級に危険な行為であり、(25) 自分が死ぬことは、考え得る最悪の状況である。(26) の天皇の血縁者になることは当時の最高位であり、(27) の経営者も会社では最高の地位なので、これらは最大最小値の示唆であると言える。

4.3.2　条件形が見られた「なおさら」

(28) 養殖業者の中には、危険な塗料や抗生物質を使わずに養殖している人もいるでしょうが、私たち買う場合、外から見ても分かりっこありません。切り身となれば、なおさらです。私が高級魚を避けたり、加工食品を買わなかったり、外食をしないのはそういう意味もあるのです。　『うおつか流ぜい肉リストラ術』魚柄仁之助著（2002）

(29) それにくらべてバックカントリーに１回でも一緒に行った仲間とは、とってもよく分かりあえるような気がします。これはびっくりするほどです。同じ経験を共有した者同士の連帯感と言いましょうか。しかもその経験が、緊張感と爽快感にあふれていればなおさらです。登るときも基本的にはみんな一緒に登ります。
『バックカントリー・スノーボード』森光著（1999）

(30) 彼がなかなかデートに誘ってくれないと、しびれを切らして自分から電話をかけたり、メールを打ちたくなったりするもの。でも、あなたから彼を誘ってはいけません。本命の彼なら、なおさらです。　『なぜか「モテる女」の共通点』浦野啓子著（2005）

「なおさら」でも条件形が見られ、51 例と半数を占めた。まず、(28) のような「前提となるネガティブな状況＋なおさらだ」が 18 例、(29) のような「前提となるポジティブな状況＋なおさらだ」が 10 例、(30) のようなネガティブ、ポジティブどちらとも方向性が判断がしにくい「前提となる状況＋なおさらだ」の形が 3 例あった。

(31) 安全管理は「性悪説」と「荒れ模様」の現実主義の立場を取ることが本音である。その結果として「性善説」と「快晴日和」の楽観主義が薄まり、とかく「地域と空港」、「空港と顧客」との関係管理に不愉快な禍根を残しがちである。空港経営が地域独占や国家独占の状況にあれば、なおさらこの禍根が残る。

『空港文化・新企業戦略』村山元英著（2004）

(32) ソファーの足元にラグを広げると、リビングの中でここはソファーに座りくつろぐ場所、という区切りがつきます。床が板張りなら、なおさらラグは必要です。暖かく見えるし、足元はラグによって冷たい床から守られます。

『おしゃれ生活ルール』高見恭子著（2002）

加えて、(31) のような「前提となるネガティブな状況＋なおさら＋より著しいネガティブな状況」が 16 例、(32) のような「前提となるポジティブな状況＋なおさら＋より著しいポジティブな状況」が 4 例見られた。ただし、条件形を伴う「なおさら」は、それ自体が述語となる「～ば / と / なら、なおさらだ」のパターンと、条件形に後続した「～ば / と / なら、なおさら～」の 2 種のパターンを有しており、条件形の前に「まして～ば / と / なら、～」の形のみで位置していた「まして」と異なっていることは特記すべきことである。

(28) は、魚を買う場合、危険な塗料や抗生物質を使ってるかは、魚の外見からはわからないし、それが切り身となっていれば、より危険かどうかわからないと解釈できる。危険は状態形容と言え、新たな状況の累加として切り身になる場合と捉えられる。(29) は、バックカントリーに一緒に行った仲間とはよく分かり合え、共有する連帯感は感情の状態形容であり、何も起こらないバックカントリーでなく、緊張する危険な場面や気持ちが晴れる爽快な場面を経験することは新たな条件の累加にあたる。(30) は、こちらから彼をデートに誘うのは悪いということが状態形容で、どうでもよい相手ではなく、本命の彼が新たな状況の累加となろう。(31) は、地域と空港と顧客の関係管理は不愉快がつきまとうが、経営が地域や国家の独占となればという仮定は新た

な状態の累加であり、根深い禍根は状態形容となる。(32) は、ソファーの足元にラグを広げると、区切りがつく。家の床が板張りという新たな状況の累加がある場合、暖かく見えるし、冷たい床から守られるラグは必要だと形容している。

条件形は「もし～たら」という仮定の意味も有することから、話し手の主観的な類推を表現する「まして」「なおさら」で用いられやすい共起表現となり、合計 68 例と最も多く見られた形であることは、納得できる。

4.3.3　原因・理由の形が見られた「まして」

「まして」に後続する部分で原因・理由を意味する「から」が見られた文は、(33) のような「前提となるネガティブな状態＋まして＋加算されるネガティブな状態」が 5 例、「前提となるポジティブな状態＋まして＋加算されるポジティブな状態」が (34) 1 例であった。数としては少ないが、共起する表現として考察したい。「まして」の位置は文頭が 4 例、述部（修飾）が 2 例であったが、計 6 例とも「(～、) まして～から」という原因・理由を表す表現が後続するパターンであった。

(33) 彼らは担当する訴訟で賄賂を取り贈賄側の相手方に中傷をあびせても、そうした行為に何ら恥じるところがない。それというのも、つね日頃は庶民がツァーリに近づいたり度々会うなどできない相談だし、裁判官自身でさえツァーリに会う機会はごく稀で、まして訴訟について話し合うことなどめったにないからである。

『ピョートル前夜のロシア』コトシーヒン著松木栄三訳 (2003)

(34) 小説の舞台をイメージすることはそう難しくはない。マニアックな読者なら、その舞台が広大な屋敷でも全体の図面を引けるだろう。まして探偵小説には挿絵や犯行現場の見取り図があるのだから。　『探偵小説と日本近代』永野宏志著 (2004)

(33) は、庶民も裁判官もツァーリ＝皇帝に会うことすらできないのだから、話し合いなどごく稀以下の最低限だというマイナス方向、(34) は、挿絵や犯行現場の見取り図という最大級のヒントをいかし、読者は全体の図面を引けるとポジティブな言及となっている。原因・理由を表す表現は、主張を補強するためのものである点から、話し手の主観的な見積もりを述べる「まして」で共起することには合点がいく。

4.3.4　原因・理由の形が見られた「なおさら」

(35) 無死満塁の先制のピンチで早々とマウンドを降りたが、打たれた責任を、自身の投球で何とかカバーしたかったはず。新天地に移ったプロ十三年目の今季は開幕 1 軍を逃し、シーズン半ばにしてやっと先発の座をつかんだのだからなおさらだ。

『河北新報』(2005)

(36)「名前は何ていうの？」女の英語はイントネーションがおかしかったが、ボンにはそれがかえって優しく聞こえた。いつも粗野な兵隊達の荒っぽい英語を聞いているから、なおさらだ。「クリスだよ」

『スペシャル・オペレーション』フランク・キャンパー著高橋和弘訳（1991）

(37) 橋を渡ってくと、ちょうど橋の真ん中あたりに麒麟がいたんです。動物園にいる首の長いキリンじゃなくて、想像上の神秘的なのいるでしょ、獣だか鳥だかわからない物騒なのが。見たのが乙姫様の後だから、なおさら親しみがわかない。その麒麟を通過すると、「滝の広場」って文字どおり滝があって。

『のほほん市中探検記』桂さと子著（2002）

(38) 開発途上地域への援助・協力のニーズはこれまでにもまして増大しており、また地球規模の問題の解決に向けてわが国の積極的な貢献が期待されています。特にわが国においては食糧やエネルギーの安定供給を始めとして、私たちの日々の生活が開発途上地域の持続し得る開発に依存しているのが実状ですからなおさら重要です。

『世界の変化と日本の経済・社会』西川芳昭著（2003）

(39) 彼らは「どんな問題でも科学や技術をもってすれば即座に解決するからそんなに心配するな」というんです。でも私がこの三十年間見てきた限りでは、彼らが解決できなかった問題がたくさんあるわけです。だからなおさらネバダに放射性廃棄物処分場を建設することには反対なのです。　『地球核汚染』杉浦俊太郎著（1996）

「なおさら」も原因・理由を意味する「から」などの表現と共起が見られたが、様々なパターンがあった。(35)のような「なおさら」自体が述語となり、「前提となるネガティブな状況＋なおさらだ」が5例、(36) のような「前提となるポジティブな状況＋なおさらだ」が2例、(37) のように「なおさら」が述部（修飾）の位置にあり、「前提となるネガティブな状況＋なおさら＋より著しいネガティブな状況」が10例、(38) のような「前提となるポジティブな状況＋なおさら＋より著しいポジティブな状況」は6例見られた。加えて、(39) のような原因・理由を表す接続詞を用いた「だからなおさら～だ」の形が4例見られた。「まして」とは異なり、「なおさら」では「～からなおさらだ」「～ため、なおさら～だ」「だからなおさら～だ」と、副詞の前の部分に原因・理由を表す表現が用いられていることが特徴的である。

(35) 打たれた責任を自身の投球でカバーしたい、(36) ボンにはイントネーションがおかしい女の英語がやさしく響いた、(37) 獣だか鳥だかわからない麒麟に親しみがわかない、(38) 問題解決に向けてわが国の積極的な貢献が重要だ、(39) 建設に反対だ、はすべて形容性があり、(35) 新天地に移ったプロ今季は開幕1軍を逃し、シーズン半

ばでやっと先発の座をつかんだこと、(36) いつも粗野な兵隊達の荒っぽい英語を聞いていること、(37) 物騒な動物を見たのが乙姫様と呼ばれる動物の後だということ、(38) 貢献が期待されている中で、特に日本は、生活が開発途上地域の持続し得る開発に依存しているのが実状であることは、新たな状況の累加と認められるだろう。(39) は「だから」という原因・理由を意味する接続表現そのものが累加となっていると言えよう。悔しさ、優しさ、親しみ、反対などは個人的感情の形容であり、実状は文字通り、それが実際の状況であって、「まして」の要素である話し手の考え得る最大最小値ではない。よって、「まして」と同様の原因・理由の表現を伴うとはいえ、「なおさら」を用いることが妥当であろう。

4.3.5　時の形が見られた「なおさら」

(40) いずれの場合も新聞ジャーナリズムにとっては好ましくない環境だ。自ら「電子新聞」をもっても、有料の固定読者をつかむのは容易ではない。コングロマリットの一員として、コンテンツの供給に特化した場合はなおさらのことだ。「紙」新聞は広告付きの記事を読者に売る。　『新聞がなくなる日』歌川令三著（2005）

(40) のような「～場合 / 時は」という表現を前に伴う「前提となるネガティブな状況＋なおさらだ」は7例見られた。容易ではない＝困難だ、は状態形容であり、新聞にとって好ましくない環境で電子新聞の供給に特化することは新たな状況の累加をとり立てている表現であると捉えられる。これは「まして」では見られなかったので、「なおさら」特有の共起する表現であり、「～場合 / 時は」を用いることで、「なおさら」の特徴である新たな状況を累加する役割を果たしていると言えよう。

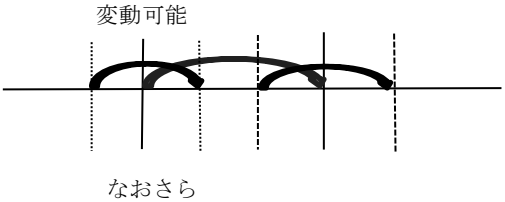
5 「まして」と「なおさら」の意味とモデル

「まして」は主に文頭に位置し、「前提となるネガティブな状態＋まして＋加算されるネガティブな状態」、あるいは「前提となるネガティブな状況における人＋まして＋著しい他者の場合」というパターンで用いられることが多い。また、数量詞はほぼ見当たらず、形容性も認められなかった。条件、原因・理由を表す表現との共起が確認でき、具体的な数字を用いるわけではないが、話し手の類推をもって最良や最大、最小や最悪などの最大最小値を見積もることが明らかとなった。この話し手の最大最小値は、工藤（1977）の「軽重」、森田（1989）の「強調」に該当するのではなかろうか。森田（2002）、安部（2013）は「まして」に「対比」の意味を見出しているが、本論文では、「最大最小値の見積もり」という概念を提案したい。モデル化すると、「前提となるネガティブな状態 / 人＋まして M（＝ maximum/minimum　話し手の類推による最大最小値の見積もり）＋加算されるネガティブな状態 / 著しい他者のネガティブな人」となろう。イメージを図式化すると【図 1】となる。

【図 1】「まして」のイメージ

「なおさら」は「～はなおさらだ」とそれ自体が述語になる特徴的な用法と、述部（修飾）に位置し、形容詞や動詞で感情や状態を形容する用法に二分されるが、主にマイナス方向に新たな状況を累加する際に用いられていた。数量詞は見られず、条件、原因・理由を伴う表現と共起が認められたことは「まして」と共通するが、言及が最大最小値と捉えられる例もあり、その場合は「まして」を用いたほうが、より自然な表現となる可能性が示唆された。時を表す表現は「なおさら」のみに見られた共起関係であった。また、どんな状態形容より「なおさら」なのかという基軸は、話し手の任意的恣意的基準であり、変動が可能なことも明らかとなった。川端（1983）は「まして」は、形容詞文性が濃くなると述べており、「なおさら」への言及はないが、形容詞文性は「なおさら」のこととも捉えられるのではないか。西原（1991）も「まして」を累加とし、「なおさら」には触れていないが、こちらも「なおさら」のこととも考えられるのではないか。「なおさら」をモデル化するなら「前提となるネガティブな状況＋なおさら（A ＝ additoin 話し手の変動的恣意的基準による累加）だ」となろう。イメージは【図 2】となる。

まとめると、「まして」「なおさら」の共通項は、「話し手の主観的な類推」であり、条件、原因・理由を表す表現と共起しやすい点である。相違点として「まして」は「話し手の考え得る限りの最大最小値の見積もり」、「なおさら」は「話し手の変動的恣意的基準による累加」と「形容状態性」を有する副詞であると結論付けられる。



【図 2】「なおさら」のイメージ

6 「まして / なおさら」と「少なくとも / せめて / せいぜい / たかだか / たかが」の関連性

「見積もり・評価」の副詞とされる「少なくとも / せめて / せいぜい / たかだか / たかが」との関連性についても触れておきたい。

仲渡（2021 ①）では、「少なくとも」は人数、回数、割合など具体的な数量を伴って用いられることがほとんどであり、話し手が主観的に最小 / 最低だと考える範囲の見積もりで留まっていた。「せめて」は最小限に限らず、最大限を示唆する場合もあるが、最大限として用いる場合は、減退動詞に留まる傾向が見られた。共通点として、両語

とも話し手の主観により見積もりを行っているが、具体的な数量詞を用いていることが挙げられた。

仲渡（2022）では、「せいぜい」は数量詞を伴い、最大限の見積もりの意味が強く表れていた。「たかだか」は最大限の見積りもの意味を有するが、マイナス評価を含む傾向が見られた。「たかが」はさして数量詞を伴わず、見積もりよりマイナス評価が全面に表れ、話し手自身の自虐と聞き手への非難の意味が目立った。三語の共通点としては、話し手が聞き手の存在を強く意識し、最大限やマイナス評価を聞き手へと伝える副詞であると結論付けられた。

まず、数量詞が「まして / なおさら」ではほぼ見られなかった点は、「少なくとも / せめて / せいぜい / たかだか」との看過できない相違であり、具体的な数値で最大限 / 最小限を見積もる時に使うわけではないことが挙げられる。「たかが」は数量詞をほぼ伴わないが、マイナス評価と聞き手の存在が表出する点は、「まして / なおさら」と異なる。しかし、「まして」は数量ではないが、話し手の主観的な類推において最大最小値を見積もるという点において、「少なくとも / せめて / せいぜい / たかだか / たかが」と共通する部分も見逃せない。

「まして / なおさら」は話し手の主観的な類推において、最高最低値を見積もるか恣意的基準かがポイントとなる副詞であろう。この話し手の主観的な基軸を価値評価性と捉えるなら、工藤（2000）の「類推的に価値の軽重を問うもの」という見解に矛盾はなく、「まして / なおさら」は類推的価値評価性の副詞とまとめられる。ただし、「まして」は「見積もり・評価」の副詞の特性も持っていると言えるだろう。

渡辺（1996）は、「せっかく雨が降ってきたのに」という文で、雨を待ち望む話し手にとって、「せっかく」は価値評価を表す語であることは明らかであると述べている。話し手の生々しい主体的意義だけを明示的意義とするのは「評価の副詞」であり、「せめて / どうせ / いっそ / せいぜい / なまじ / さすがなどなど」と例を挙げているが、この「などなど」に「まして / なおさら」が加わる可能性もまた、否定できないのではないだろうか。話し手の主観的な基軸が最高最低値か任意かという点では、主体的意義、明示的意義を満たしていると考えられるからである。

以上から、「まして」には見積もりの側面もあるが、「まして / なおさら」をまとめると、「類推・主体的評価」とカテゴライズすることが最も適しているように思われる。

7　おわりに

本論文において、「まして」「なおさら」の各 100 例文の分析から、構文的位置や文脈における方向性、共起すると判断できる表現を考察し、モデル提示と共通点、相違点の一部を明らかにすることができた。さらに、「見積もり方・評価」に関する副詞「せめて」「少なくとも」「せいぜい」「たかだか」「たかが」との共通点、相違点も考察し、「類推・主体的評価」という分類を提案できた。今後は例を増やし、用法を体系的に整

理することで日本語学習者への一助としたい。

参考文献

安部朋世（2008）「副詞マシテの意味と用法」『千葉大学教育学部研究紀要』第 56 巻, 千葉大学, pp.287-292.

――――（2013）「副詞マシテとナオサラの分析」『千葉大学教育学部研究紀要』第 61 巻, 千葉大学, pp.397-401.

梅棹忠夫他監修（1995）『講談社カラー版日本語大辞典（第二版）』講談社

川端善明（1983）「副詞の条件」『副用語の研究』明治書院, pp.1-34.

工藤浩（1977）「限定副詞の機能」『松村明教授還暦記念国語学と国語史』明治書院, pp.969-986.

―――（2000）「副詞と文の陳述的なタイプ」『日本語の文法 3　モダリティ』岩波書店, pp.163-234.

―――（2016）『副詞と文』ひつじ書房

砂川有里子他（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

仲渡理恵子（2021 ①）「副詞『少なくとも』の意味と用法」『同志社大学　日本語・日本文化研究』第 18 号, 同志社大学日本語・日本文化教育センター, pp.29-49.

――――――（2021 ②）「副詞『せめて』の意味と用法」『三重大学国際交流センター紀要』第 16 号, 三重大学国際交流センター, pp.17-32.

――――――（2022）「副詞『せいぜい』『たかだか』『たかが』の意味と用法」『同志社女子大学大学院　文学研究科紀要』第 22 号, 同志社女子大学, pp.127-152.

西原鈴子（1991）「副詞の意味機能」『副詞の意味と用法』, 国立国語学研究所, pp.51-80.

日本語文法学会編（2014）『日本語文法事典』大修館書店

飛田良文・浅田秀子（2018）『現代副詞用法辞典　新装版』東京堂出版

森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店

――――（2002）『日本語文法の発想』ひつじ書房

渡辺実（1971）『国語構文論』塙書房

―――（1983）『副用語の研究』明治書院

―――（1996）『日本語概説』岩波書店

―――（2002）『国語意味論』塙書房

例文出典

『現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）BCCWJ-NT』大学共同利用機関法人　人間文化研究機構国立国語研究所